

### 避難の心得

避難時に必要となる様々な心得を知っておきましょう！

避難の呼びかけに耳を傾ける

危険が迫ったときは、テレビやラジオ、広報車や防災行政無線などからの避難の呼びかけに注意しましょう。

電気・ガス・戸締りを確認する

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをらさざ、戸締りを確認しましょう。

地下から素早く地上へ避難する

地下空間へは水が勢いよく流れ込み、水圧でドアが開かなくなる場合もあるため、できるだけ早く地上へ避難しましょう。

流れやすいものは屋内に移動する

ボリタックなど軽いものを屋外に置いておくと、浸水によって流れていってしまうので、事前に屋内に移しておきましょう。

室内に水が入らないよう対処する

扉の下の隙間から水が入ってくるので、「水のう」や「土のう」「板」などで前面を囲み、「タオル」で隙間をふさぐとよいでしょう。

身を守る格好で避難する

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットをかぶり、長靴より紐で締められる運動靴かトレッキングシューズをはきましょう。レインコートは上下が分かれているタイプがよいでしょう。

車で避難しない

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げとなります。また浸水すると、車は動かなくなるので使わないでください。

高い場所に避難する

洪水の場合、歩ける深さは約50cmまで、それ以上になったら建物の2階以上、または屋根の上で救助を待ちましょう。

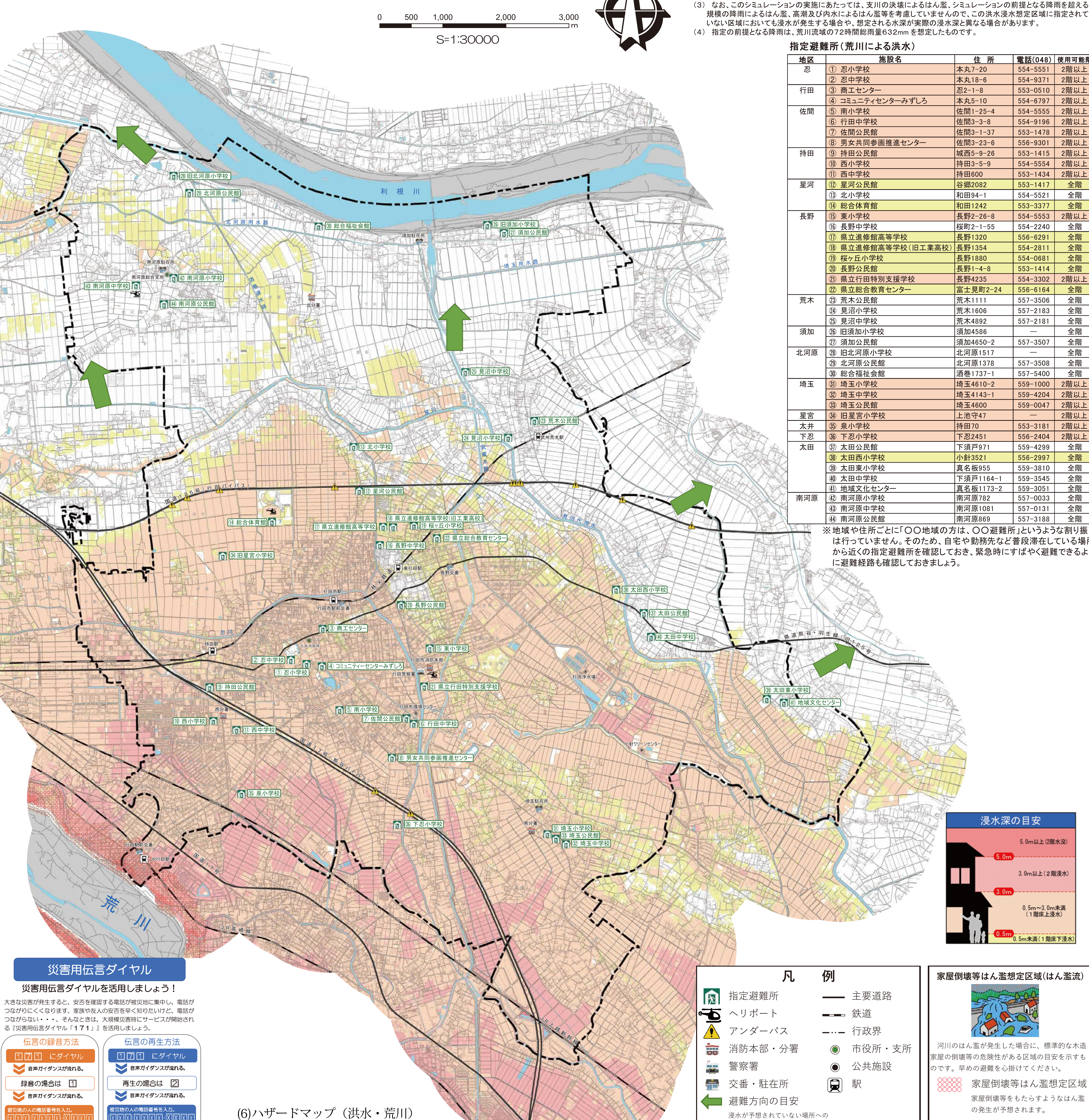
水面下の安全を確認しながら避難する

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認しながら歩きましょう。

危険な場所を避け、はん濫水は触らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないでください。  
また、はん濫水には汚水が混ざっているため、子どもなどが触らないように気をつけましょう。

## 荒川 洪水浸水想定区域



伝言の録音方法

伝言の再生方法

録音の場合は [1]

再生の場合は [2]

被災者の人の電話番号を入力

被災者の人の電話番号を入力

(6)ハザードマップ(洪水・荒川)